

宮私幼 だより vol.149



ミネ幼稚園

巻頭言

卒園・入園おめでとうございます。平成31年10月から幼児教育の無償化がはじまります。

保護者の方々にとりましては子育てに係る負担が減り、喜ばしいことではありますが、幼稚園側から見れば厳しい制度でもあります。一例ではありますが、宮城県内の平均保育料はバス代、給食代を除くと月額20,000円弱で、全国一律の25,700円に到底及びません。

この機会に保育料を25,700円に値上げできれば健全経営につながるわけですが、便乗値上げは当分できない状況にあります。値上げができないとなれば、これまでの運営費補助金の拡充や市町村からの補助金に頼るしか方法がありません。加盟園の先生方の一層のご協力をお願い申し上げます。

次に、教員を対象にした、人材確保のための処遇改善特別補助が平成29年度から実施されております。各園、いろいろな事情があるとは思いますが、申請する幼稚園が少なく、どうしたものかと心配しております。このままでは、認定こども園や保育園の初任給との差がますます広がり、教員不足が心配されます。この補助金は設置者が1/2負担することになっており、少子化で厳しい運営状況とは存じますが補助金の有効利用を提案致します。

最後に、子育て支援、待機児童解消の名の下、様々な認可外保育施設が増えてきております。その多くは、3歳未満児が対象であり、そのあとをどこが引き受けるのか、行政は考えているのでしょうか。

連合会としても、幼稚園・認定こども園を中心に3歳児からの受け入れを検討してみたいと思います。

宮私幼理事長 村山十五



Close・up 理事会

平成30年度宮私幼理事会の概要（10月～3月）

【平成30年度第7回理事会】

日時 平成30年12月19日(水)午後3時～
場所 宮私幼会議室
議事

- (1) 幼児教育の無償化について
別紙資料に基づき村山十五理事長より説明があった。
- (2) 研究委員会より指導要録の書き方研修会について
日時:12月27日(木)10時～15時
場所:東北福祉大学仙台駅東口キャンパス
講師:文科省初等中等教育局 視学官 湯川秀樹
- (3) 研究委員会より平成31年4月3日開催の新任教員研修会について
日時:4月3日(水)10時～15時
場所:仙台市戦災復興記念館
原案通り承認
- (4) 9月～12月迄の事業報告について
常任理事会報告、各委員会報告
総務・給付委員会:私学助成園の教職員採用・待遇改善調査アンケートについて

報告事項

- ア 立華認定こども園からの退職金給付事業加入へのお願いについて
イ 大和町・富谷市にある3園の仙私幼研修会参加及び研修シールの発行について
ウ 地域的位置づけからこれまで通り、研修会参加を認める。
11月22日(木)開催の東北地区会 教育研究・経営研究・政策総務担当者連絡協議会の報告について
エ 私立幼稚園の園長の叙勲に係る候補者選考基準の変更について
これからの予定について

【平成30年度第8回理事会】

日時 平成31年2月20日(水)午後2時～
場所 宮私幼会議室
議事

- (1) 災害見舞金交付要綱の一部改正について
○義援金の配分について
・東日本大震災義援金現在高645,585円→今年度は配分せず、今年度末から一般会計で管理し、災害対策引当資産に積み立てる。
- (2) 平成30年度第2回定時総会の議案書について
第1号議案 平成30年度一般会計収支補正予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支予算(案)について
第2号議案 平成31年度事業計画(案)について
「振興対策」などの文章の修正があった。
第3号議案 平成31年度一般会計収支予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支予算(案)について
報告事項 災害見舞金交付要綱の一部改正について
その他 平成32年度園児募集の日程等について
例年の通り、10月1日以降願書配布、11月1日以降受付。
- (3) 第2回定時総会の議長、議事録署名人、及び司会者について
- (4) 宮私幼加盟園の附帯事業である小規模保育園の入会と退職手当資金給付事業への加入について→下記の要件を充たし、理事会で審議の上、承認後加入を認める。
[加入要件]
①定款に附帯事業と記載されている事。
②認可されている事。③独自に私学共済に入っている事。
- (5) 宮城県総合教育センターとの「平成31年度の研修事業に係る連携及び協力に関する覚書」及び設置者・園長研修会時の説明会について
総会前に説明していただき、できるだけ早く捺印したい旨の発言があった。

報告事項

- イ 就職内定学生実習期間の傷害保険の申込み状況について
ロ 宮私幼教育研究発表大会 3月22日(金)の役割分担について
ハ 宮私幼永年勤続表彰について
ニ その他 ・今後の予定について

事務局だより

○関係機関団体

- 10/23 第43回宮私幼PTA親善バレーボール大会(グランディ21)
" 宮城県私学振興大会(電力ホール)
11/21 第14回学ぶ土台づくり推進連絡会議(県行政庁舎)
11/27 宮城県次世代育成支援対策地域協議会及び宮城県子ども・子育て会議(県行政庁舎)
12/10 全日私幼PTA連合会全国大会(東京)
1/8 仙私幼教員研修大会(太白区文化センター)
1/30 宮城県子ども虐待対策連絡協議会(県行政庁舎)
2/18 私学審議会(県自治会館)

○全日私幼連関係

- 10/2 臨時理事会(東京)
10/19～20 第33回東北地区教員研修大会(岩手大会)(岩手)
10/22～23 第34回設置者・園長全国研修大会(栃木)
11/19 政令指定都市特別委員会研修会(東京)
11/21～22 園長・リーダー研修会(東京)
11/22 東北地区会教育研究・経営研究・政策総務担当者連絡協議会(岩手)
12/14 団体長会・理事会合同会議(東京)
12/22・23 免許状更新講習(第4回選択)(福祉大東口キャンパス)
1/17～18 全国研究研修担当者会議(京都)
1/28 認定こども園全国研修会(新潟)
2/13 ECEQコーディネーター養成講座(東京)
2/18 第8回後継者育成研修会(東京)
2/19 幼稚園ナビ担当者会議(東京)
2/22 臨時理事会(東京)
2/25 102条園研修会(東京)、認定こども園全国研修会(大阪)
2/26 第2回東北地区会・団体長会議及び事務局長会議(岩手)
3/5 理事会(東京)
3/23 免許状更新講習(第5回選択)(福祉大東口キャンパス)

○宮私幼のあゆみ

- 10/10 総務・給付委員会
10/15 研究委員会
11/6 研究委員会
11/14 総務・給付委員会
11/14～18 宮城県造形教育作品展(県美術館)
12/12 研究委員会、地区研修担当者連絡会、研究発表大会発表園打合会
12/19 理事会、総務・給付委員会、広報委員会
12/27 指導要録の書き方研修会(福祉大東口キャンパス)
1/9 知事陳情打合会、総務・給付委員会
1/22 知事陳情・宮城県議会議長陳情
1/23 研究委員会
2/18 総務・給付委員会、常任理事会、総務・給付委員会合同会議
2/20 理事会、総務・給付委員会
2/28 研究委員会、研究発表大会事前打合会
3/8 設置者・園長研修会、第2回定時総会(仙台市戦災復興記念館)
3/18 研究委員会
3/20 総務・給付委員会
3/22 教育研究発表大会(イズミティ21)

○慶弔

- 10/7 菅野 貫慈 氏(はなぶさ幼稚園 創設者) ご逝去
11/29 伊藤 和夫 氏(六郷幼稚園 理事長・園長) ご逝去

平成30年度 設置者・園長研修会 / 第2回定時総会

日時:平成31年3月8日(金)

会場:仙台市戦災復興記念館

【設置者・園長研修会】

1. 行政報告について

講師:宮城県総務部私学・公益法人課

主任主査 後藤正寛氏

宮城県総務部私学・公益法人課の主任主査の後藤正寛氏に「行政報告について」と題して約1時間にわたり講演をいただきました。講演内容は、今年10月1日から始まる予定の3歳児から5歳児までの幼児教育無償化の現況を膨大な資料に基づいて詳しく報告してくださいました。無償化の対象は幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育、企業型保育、認可外保育施設の3歳児から5歳児までの園児を検討中とのこと。月額上限2.57万円(利用料)が無償化となる予定ですが、給食代、スクールバス代は対象外で、給食代を保育料に含めている幼稚園は留意する必要があります。幼稚園の預かり保育も利用実態に応じて、月額1.13万円まで無償化を検討しています。また、新たに新3号認定(満3歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子ども:施設等利用給付認定の新3号認定は、保育の必要性以外の住民税非課税世帯の子ども)や新2号認定(満3歳に達する日以後の最初の3月31日を経過した子ども)の子どもも認定を受けることを話されました。預かり保育の職員数は、3歳児の場合は児童20人につき職員1人、4歳児以上の場合には児童30人につき職員1人とし、職員は資格を有する者としております。無償化の財源は消費税10%から支出され、支払い方法に関しては、新制度移行施設は現物給付を原則とし、未移行幼稚園は市町村が実情に応じて判断する予定とのこと、それぞれの幼稚園は該当する市町村との関係を緊密にしておく必要があると勧められました。認可外保育施設等は償還払いを基本として、市町村が実情に応じて現物給付を検討中です。財源が消費税から支出するために、幼児教育の質の向上などが厳しく求められるので、それらを考慮しながら幼児教育を助めて欲しいとのご進言もいただきました。就園奨励費は9月末に廃止される予定です。教員免許状更新講習に関する申請は、各園の理事長名の記載漏れや捺印漏れが散見されるので注意していただききたいとの説明がありました。また、食物アレルギー(ピーナッツアレルギー)の園児がいる場合には「豆まき」は「ピーナッツ」を使わず紙で作る等の工夫の必要があると指摘して下さいま



した。また、幼児教育無償化で新しい動きがあれば逐一お知らせする予定で、質問等があればお問い合わせくださいとのことでした。

2. 幼稚園における防犯対策について

講師:宮城県環境生活部共同参画社会推進課

男女共同参画推進班 吉田 陽氏

犯罪からの防犯は、①「入りにくく、見えやすい」環境づくり。「こんにちは！」と挨拶をするだけでも防犯につながるがあります。②地域との緊密な連携の必要性、防犯カメラの設置や地域の方々のパトロールなどが犯罪を未然に防ぐこととなります。殺人や窃盗などの凶悪犯罪は減少しているが、不審者の児童への声掛けは依然として高いとのこと。また、



3. 全日私幼連開催「後継者育成研修会」の報告

講師:根白石幼稚園 園長 庄司昭博氏

2月18日の研修会には約180名が参加、幼稚園よりも新制度に移行した幼稚園からの参加者が多かったです。文科省より新2号(満3歳に達する日以後の最初の3月31日を経過した子ども)を認定する旨を聞きました。今年の10月1日から3歳から5歳児の幼児教育の無償化が始まるが、少子化対策や高齢者対策の一環で、財源は消費税10%からの支出となります。利用料の上限月額25,700円まで、預かり保育は月額11,300円まで無償化とするが、便乗値上げは極力しないようにとのこと。財源が消費税からの支出で、それぞれの市町村から現物支給なので連携を密にして欲しい。預かり保育が増えて日割り計算、時間単位で違ってくるため事務量が増えることが予想されます。教職員の処遇改善のために努める必要があります。幼稚園の大小に関わらず教職員の質の向上も求められています。



【平成30年度第2回定時総会】

総会に先立ち、今年度お亡くなりになられた先生方を偲び黙祷を捧げました。はじめに開会のことばを鎌田文恵副理事長よりいただき、経済が下降気味にも関わらず利用料の無償化が予定されているが、本当に大丈夫なのかという

一抹の不安があります。お互い知恵を出し合って幼児教育を進めていきたいとの話をいただきました。続いて、村山十五理事長から先般行われた全日私幼連総会で無償化の中に入園料も含めても良いと認められたとのこと、また新しい情報が入り次第お知らせしたいとの挨拶をいただきました。次にご来賓として宮城県総務部私学・公益法人課副参事の佐々木武弘氏から祝辞をいただき、平成30年度に新制度に移行された幼稚園が18園、移行することを検討中の幼稚園は14園



あると述べられ、幼児教育に更なる貢献を頂きたいとお話をされました。佐々木幸士宮私幼PTA会長からも、宮私幼と車の両輪のように、共に私立幼稚園の振興のために運動していきたいとご挨拶をいただきました。



総会議長として石巻地区矢本はなぶさ幼稚園の山田元

郎先生、若林地区エコーノワール幼稚園の佐々木拓真先生、議事録署名人に青葉地区あらまき幼稚園の菅原耕一先生、仙南地区たんぼ幼稚園の伊藤誠先生を選出し、議事に入りました。第1号議案として平成30年度一般会計収支補正予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支補正予算



(案)について、第2号議案平成31年度事業計画(案)について、第3号議案は平成31年度一般会計収支予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支予算(案)について審議され、いずれも異議なく承認されました。報告事項として災害見舞金交付要綱の一部改正について報告がありました。その他として平成32年度園児募集の日程は10月1日となりました。根来興宣副理事長の閉会の挨拶をもって第2回定時総会が終了いたしました。(友川 栄)



宮城県知事・議会議長への陳情

1月22日午後4時より、平成31年度予算処置に伴い恒例となりましたが、はじめに佐藤光樹県議会議長、4時40分から村井嘉浩宮城県知事に「平成31年度私立幼稚園に対する県補助金等引き上げに関する要望書」を提出しました。その要旨は、「1. 東北地区で最下位である、宮城県私立学校運営費補助金を、国の財源措置額まで改善するよう要望します。」「2. 私立幼稚園が教員の人材確保のための処



遇改善を行った場合に係る必要経費の一部を追加助成していただきたく、私立学校運営費補助金における特別補助の拡充を要望します。」そして新たに「3. 私立幼稚園に対するエアコン設置費用の補助事業に係る予算の確保について、国への働きかけを要望します。」を加えての陳情となりました。

当日は宮私幼から村山理事長はじめ副理事長、常任理事が、宮私幼PTAから佐々木幸士会長はじめ副会長、役員計13名の方々に



参加していただきました。特に大和町もみじが丘幼稚園の年長児笠原悠斗君の力強い応援には村井知事、佐藤議長も笑みを浮かべられ、和やかな陳情となりました。

村井知事、佐藤議長お二方共に厳しい財源の中、善処いただける旨のお返事をいただきました。(鎌田俊昭)



平成30年度宮私幼教育研究発表大会

大会テーマ「1人1人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を」

期日:平成31年3月22日(金) 9:45~15:30

会場:仙台銀行ホール イズミテ121(仙台市泉文化創造センター)

【第1部開会行事】

小野寺靖子研究委員長の進行のもと、鎌田文恵宮私幼副理事長の開会の挨拶に始まり、泉ヶ丘幼稚園・アルル保育園園長庄子真由美先生の指揮により「幼稚園賛歌」を斉唱しました。続いて村山十五宮私幼理事長より、「日頃、私立幼稚園のためにご尽力をいただいているご来賓の方々のご臨席のもと、本大会が開催されることに心から感謝申し上げます。先生方には、この研修会で1年間の実践を振り返ると共に次年度に向けて参考にし、質の向上のため活発な意見交換がなされ充実したものとなるようにお願いします。平成31年10月から子育て支援法が改正され、幼児教育無償化が始まり、月25,700円を上限に無償となりますが、保育に支障がないように万全を期して参ります。私も私立幼稚園、認定こども園は子どもたちの健やかな成長を願い、10年先、20年先に世界で活躍できるような人間を育てたいと頑張っております。ご来賓にはますますご尽力を賜りますようお願い申し上げます。」とご挨拶をいただきました。



永年勤続教員表彰では42名の先生方が表彰され、仙台バプテスト教会幼稚園渡辺かおり先生が代表してお受け取りになり、謝辞を述べられました。

ご来賓として、村井嘉浩宮城県知事のご祝辞より、「東日本大震災から8年の歳月が経過しましたが、多くの園児達が皆様方の愛情に包まれながら明るく元気に成長している姿を拝見すると、ふるさと宮城が復興復旧に向けて着実に歩みを進めていると感じられます。県では幼児期を生涯にわたる人間形成の基礎を築く時期、即ち学ぶ土台作りととらえ、関係機関と連携しながら各種取り組みを実施しております。震災からの復興を進めていく上で、幼児教育は大変重要であると認識しておりますので、子どもたちが夢と志を持ち、安心して学べる保育環境を確保するための取り組みを進めて参ります。平成27年4月からスタートした子ども子育て新制度は、施行から4年経過し、新制度に移行する私立幼稚園は増加しており、平成31年4月から新たに14園が準備を進めております。昨年4月からの新たな幼稚園教



育要領の実施、幼児教育無償化のための子ども子育て支援法の一部改正法律案が国会に提出されるなど、私立幼稚園を取り巻く環境は大きく変化しようとしております。県としましては、今後も皆様との連携を密にし、幼児教育の更なる充実に取り組んで参ります。本大会で幼児教育に携わる意欲を刺激し合って、本日得られた知識や情報を各園の教職員にも幅広くお伝えいただき幼児教育の発展につなげていただきたいと思います。」と新妻直樹課長が代読されました。

佐藤光樹宮城県議会議長より、「近年の子どもたちを取り巻く環境は、少子化、核家族化、共働きの増加など大きな変化が起きており、人間関係や地域社会における連携の希薄化など、様々な課題に直面しております。幼児期は感情や個性、社会性と言った人格形成の基礎が養われる大切な時期で、生活環境や教育環境が成長には大きく関わると言われております。県内の私立幼稚園の皆様が一堂に会して活発に討議検討することは誠に意義深く幼児教育の発展に向けて大いに期待するところであります。県議会としても関係機関と連携を密にし、私学の振興、教育環境の整理充実をはじめ、子どもたちがより良い環境の中で健やかに成長できるように力を尽くして参ります。」とのご祝辞をいただきました。



佐々木幸士宮私幼PTA会長より、「先週各園では卒園式、4月には入園式と年度末と年度初めのお忙しい中、毎年子どもたちのために、研修の場を開催されていることに対して保護者を代表して感謝申し上げます。10月から幼児教育無償化がスタートし、量の拡大が進むと同時に、幼児教育の質の確保のために幼児教育振興法案が3年がかりで審議されています。この法律では幼稚園と小学校の接続が大きなテーマとなるので、宮城県教育委員会でも4月から幼児教育推進班が立ち上がる予定です。連合会は幼児教育のアドバイザーを含めて宮城県を支えていただいているので、なお一層質の向上と処遇改善のために共々進めていきたい」とご祝辞をいただきました。



吉岡弘宗宮私幼常任理事よりご来賓の紹介、根来興宣宮私幼副理事長の開会の挨拶で第1部閉会行事が終了しました。(鎌田俊昭)

【第2部 分科会】

第2分科会の詳細については、『平成30年度幼稚園教育研究紀要』に掲載予定ですので、ここでは簡単な紹介に留めます。

各分科会ともファシリテーション方式で、熱心に発表を聞いたり、それぞれの会場前のポスターを見てから付箋にたくさんの意見を書き貼っていました。

■ 第1分科会（1階大ホール）

「子どもと共に育つ保育者」



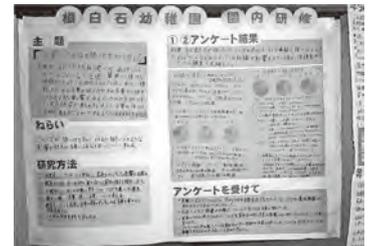
■ 第2分科会（1階展示室）

「子どもの理解」



■ 第3分科会（1階小ホール）

「保育実践」



【第3部 講演会(要旨)】

演 題 『心の育ちと対話する保育実践』
一直観的応答力を高めあう同僚性の形成目指して—
講 師 東京家政大学子ども学部子ども支援学科
教授 加藤 繁 美 氏



乳幼児から6歳までに、子どもの心の形が育ちます。子どもたちは、自分の声を聴きとられながら、自分の心を育てており、教師は、その言葉(口頭詩)を記録することが大切です。子どもの気持ちに共感することが大切で、教師の最初の

ひとことが決定的です。子どもの声を聴くことの過度の強調は、強い言葉を持つ子どもの声を大切に、反面強い言葉を持たない子どもを不利な立場に追い込む危険性を持っています。(選ばれたエリートと辺境に置かれた移民のように)教師は、より小さい子どもの声を聴かなければなりません。子どもの声を聴く保育実践は重要であると同時に、困難さが伴うという例として探求的知性を伸ばす4

歳児の実践記録を通して話されました。

保育実践が課題とする二つの対立概念である個性化vs社会科、自由vs規律(道徳性)、個の発達vs集団の発達は、教師が直観的応答力(感覚と感性、センス)で統一し、概念的知性(保育理論)と併せてその専門性を構成する二つの要素であります。また、『三歳からの大人』の絵本を読みながら、自己主張が強い2歳児と行動規範が出てくる3歳児を例として取り上げ、3歳は大きな転換期で、子どもが新しい力を獲得するという事は新しい苦しみを抱え込むことであり、2歳児までの自我(能動性、探求性、興味)と第二の自我(共感性、共同性、社会的知性)の間で揺れる3歳児の姿をわかりやすく話されました。

「記録を書く人書けない人」の著者である加藤先生は、終始軽妙でユーモアのある語り口で、しかも理論的裏付けと説得力があり、熱心に聞き入る参加者の姿が印象的でした。(小川せつ子)



宮 城 県 造 形 教 育 作 品 展

標記の作品展が、平成30年11月14日(水)から18日(日)まで宮城県美術館において開催されました。

県内の幼稚園から中学校までの作品が展示されておりました。私立幼稚園から43点の作品が出品され、時節柄秋の運動会や芋掘りをテーマにしたものが多く、恐竜、水族館、人物画などもあり、いずれもいきいきとした力作揃いでした。



幼稚園訪問記

幼な子とともに

宗教法人長泉寺 ミネ幼稚園

〒981-1505

角田市角田字長泉寺 69-2

園児数 120名/ 7クラス 教職員16名

(満3歳児16名、3歳児26名、4歳児37名、5歳児41名)

※平成31年2月4日現在

ミネ幼稚園 を訪問しました!!

2月4日(月)、角田市のミネ幼稚園を訪問取材させていただきました。昭和37年に、宗教法人長泉寺の社会事業のひとつとして設立されたミネ保育園が、昭和40年に組織替えをして宮城県知事認可のミネ幼稚園となりました。

遠くからでも見えるH2型口ケット実物大模型がある台山公園の近くに位置し、日常の保育や運動会で利用されています。しっとりとした佇まいのお寺に隣接する門を入ると「ののさま」の像があり、園児は登園するとそこで挨拶をして園舎に入るとのことです。玄関で目に入ったのが、資源回収ごみや再利用できる物を分別して入れる箱です。整然としており、日頃から園児や教職員がきちんと理解して分別利用している様子が窺われました。当日は「おにぎりの日」で、家から持参したおにぎりを持って縦割りの



クラスに移動し、全園でのお店屋ごっこの準備に取り組んでいました。3歳児は、2クラス合同でYMC Aの音楽に合わせてダンスと玉入れをしていましたが、4歳児クラスでは鍵盤ハーモニカ、5歳児クラスになると、鼓笛隊を編成し、運動会等でご披露するとのことでした。



1 教育目標

園児にふさわしい適切な環境を与え、宗教に基づく生命尊重と慈悲の精神で清く正しく、やさしい人間を育成する。

◇目指す子どもの姿

- ・礼儀: はっきりあいさつできる子
- ・慈悲: たすけあい、思いやりのある子
- ・智慧: 社会ルールを理解し、守る子
- ・自立: 自分のことは自分でする子
- ・環境: ものを大切にする子

2 特に力を入れていること

- ①環境教育の取り組み
- ②専門機関による療育相談(アスム療育センター)
- ③安心・安全な保育環境(全室エアコン・空気清浄機・加湿器・高機能浄水器の設置、メール配信システムの導入)
- ④安全衛生への取り組み(インフルエンザ等、病気の予防のため、普段から手洗い・消毒・うがいの徹底)

3 保育時間

8時30分～
14時



4 預かり保育

早朝7時30分～
降園後14時～
18時(特別延長18時30分まで)

5 給食

なし

6 バス送迎

2台(2時間)

7 未就園児教室

ひまわりひろば
(2～4歳児)
毎月1回
午前10時～12時



(小川せつ子・鎌田俊昭)